

第39回日本臨床栄養学会総会 発表

題名；アルツハイマー型認知症罹患患者1症例における中鎖脂肪酸の継続摂取の有用性

氏名；野坂直久¹⁾、末満ひろみ²⁾、青山敏明³⁾、加藤一彦²⁾

所属；¹⁾日清オイリオグループ株式会社、²⁾医療法人社団彦仁会かとうクリニック、

³⁾大東カカオ株式会社

【目的・背景】中鎖脂肪酸(MCF)摂取は、アルツハイマー型認知症(AD)者の認知機能改善報告(Nutr. Metab. 6, 31, 2009)があり、また、疫学研究では健常人における認知機能低下抑制が示唆されている(日本栄養・食糧学会誌, 68, 101, 2015)。また、MCFは副作用に係る薬物相互作用は報告されておらず、糖尿病並びに脂質異常症治療薬との併用摂取に関して影響のなかったことを本学会誌で報告した(日本臨床栄養学会雑誌, 27, 24, 2005)が、AD者への影響は充分明らかでない。そこで本研究では、AD高齢者へのMCF継続摂取に対する影響を日常観察および血液性状から評価した。

【方法】クリニックに通院、服薬し、通所介護施設に通うAD高齢者を対象とした。無償提供のMCFを含む油脂および加工食品を組み合わせ、一日MCFを10g程度継続摂取させた。継続的な日常観察と採血等からその影響を評価した。

【倫理的配慮】倫理委員会の承認、事前のMCF摂取に関する罹患患者本人・家族への説明と文書による同意、発表承諾と施設長の発表承諾得た。個人情報保護等人権に配慮した。

【結果】対象者は2014年9月(82歳)からMCF摂取開始し、2週間以降に中核症状(遂行機能、意味・陳述記憶、遅延再生)に加え、行動・心理症状(BPSD；もの盗られ妄想、易疲労)に改善を認めた。一方で、2017年4月現在(2年6か月経過、84歳)まで短期記憶や不安には改善を認めず、この間に意味・陳述記憶や遅延再生で症状の進行と改善を繰り返すなどの観察をみたが、大きく進行しなかった。経過観察中にHbA1c値が上昇したり、服薬加療によって下降したりするなどの変動を認めたが、既報のようにMCF摂取は血液生化学検査値への影響を認めなかった。

【まとめ】AD高齢者1症例への2年6か月に渡るMCF継続摂取は日常観察において症状の改善を認め、測定した血液性状や服用する薬物との相互作用に影響を認めなかったことから、ADにおけるMCF摂取が有用である可能性が示された。患者の新たな評価軸としての有用性が示唆された。